

# 子どもと女性の健康相談室

74



福島医大付属病院小児科主任教授  
・総合周産期母子医療センター長  
細矢 光亮氏

現在、総合周産期母子医療センターは福島市の福島医大付属病院に、地域周産期母子医療センターは郡山市の太田西ノ内病院、福島市の大原総合病院、会津若松市の竹田総合病院、いわき市医療センターに置かれています。郡山市の星総合病院と寿泉堂総合病院、須賀川市の公立岩瀬病院、白

二〇一七(平成二十九)年四月に、福島医大付属病院に新病棟(みらい棟)ができました。この中に、小児集中治療室(PICU)を持つことも医療センター(五階病棟)と、母体・胎児集中治療室(MFICU)、新生児集中治療室(NICU)が拡充された総合周産期母子医療センター(三階病棟)があります。こ

周産期母子医療センターが拡充されたことにより、出産時のリスクの高い妊婦さんを母体搬送していただき、生まれた新生児をすぐにNICUで適切かつ円滑に提供されるためには、それぞれの周産期医療機関が、その果たしている機能に応じて役割分担し、連携体制を整備することが重要

です。そのため、妊婦さんは地域の産科クリニックや病院産科で妊婦健診を受けていただいて、経過中に母体に妊娠高血圧症候群や前期破水、切迫早産などの兆候が見られた場合には地域の周産期母子医療センターや周産期医療協力施設に、特にリスクが高い妊婦の場合、あるいは胎児に異常が認められる場合には、県内の産科と小児科が協力して、県内の周産期医療を守ってまいります。

## 状況に応じ出産支援

治療するという、母と子に優しくより安全な医療を提供できるようにになりました。

今回は、特に県内の周産期医療に焦点を絞って、現況をお話しいたします。安全な周産期医療が県内全域にわたって

河市の白河厚生病院、相馬市の公立相馬総合病院が周産期医療協力施設です。

性疾患の患者さんの受け入れが容易になり、県内各地の病院からの要請に対し即時対応が可能になりました。同様に、総合

産科クリニックや病院の産科で、リスクがある妊婦や早産の場合はNICUのある病院の産科で、さらにリスクの高い妊娠や千五百g未満の早産などの場合はMFICUとNICUのそろった周産期医療センターでの分娩(ぶんべん)が適切な連携体制を目指してい

ます。県内のどこでも安心して赤ちゃんを産み育てることができるように、県内の産科と小児科が協力して、県内の周産期医療を守ってまいります。

### 県内の周産期医療

周産期母子医療センター(三階病棟)があります。こ

県内のどこでも安心して赤ちゃんを産み育てることができるように、県内の産科と小児科が協力して、県内の周産期医療を守ってまいります。